



2017.2.20

自然の活用はハードからソフトの時代へ

新国 勇

自然を活かした観光開発といえば、りっぱな遊歩道や木道をつくり、駐車場をもうけて、大勢の観光客を呼び込もうとする傾向がいまでもある。これは高度経済成長期に主流だった大勢の観光客に対応するマスツーリズム型の観光開発のなごりだ。上高地や立山にある観光施設がすばらしいからと、それを真似したところで、とうていかなわない。にもかかわらず、大がかりなハード事業をするのはなぜだろう。原因は、ただでお金がもらえる補助事業があるからだと思う。補助枠に該当させようと、過剰なハード施設をつくりお金がふくらむ。りっぱな施設が完成すれば、目に見える実績となる。しかし、人口縮小時代をむかえ、旅行志向が多様化している現在、このような観光開発が必要なのだろうか。

昨年、浅草岳山ろくにある沼ノ平に遊歩道の整備計画がもちあがった。ユネスコエコパークに登録されたのを機に、県の補助を受けて自然体験の観光拠点にしようと、遊歩道を修復延伸し、途中にある小三本沢に仮橋をもうけるというものだった。沼にちかづく入山者もいるので、荒らされないよう新しい道もつけるという。学ぶ会は、これに待ったをかけた。沼ノ平が開発可能な「レクリエーションの森」となっていることから、「奥会津森林生態系保護地域」という保護林に設定することを会津森林管理署南会津支署に申し入れた。さいわいこの要望は、功を奏し、保護林に編

入する方向ですんでいる。ここはクロホオヒゲコウモリをはじめとしてイヌワシやコノハズク、キタゲンゴロウモドキなどの貴重種がすむ絶滅危惧種の宝庫だ。さらに沼ノ平を含む浅草岳の北東斜面一帯は地すべり地である。湖沼群の新陳代謝もはげしい。このような不安定な土地に、遊歩道をつくったとしても、積雪も作用して、毎年、多額のメンテナンス費用がかかることだろう。さらに、小三本沢というあばれ沢にかけた橋を、だれが責任をもって管理するのだろうか。沼ノ平は、裏磐梯の五色沼などとは成り立ちが違う。もろい地形のうえにできあがった攪乱地^{かくらんち}なのである。林野庁がここを山地災害危険地区に指定しているのもこの理由による。

幅の広い遊歩道でなくても、人が歩ける道幅さえあれば用はたせる。危険な場所があり沼のまわりを荒らすような人がいるなら、地元の公認ガイドの同行を条件に入山する方式をとるのがよい。だれでも自由に入れるというより、なかなか入れないから行ってみたいというプレミア付きのツーリズムにすれば沼ノ平の価値はいっそう高まる。お金は、ハード整備よりガイドへの謝礼や入山ルールの徹底というソフト面に使ってこそ地元貢献となる。これこそユネスコエコパークが提唱する自然と調和する持続可能な地域振興だと思う。

*関連記事が3面にあります。

活動報告 (2016.1～2016.12)

*赤文字は活動報告の掲載ページ

4/12 春の植物観察会 黒谷 参加12名 2ページ

5/9 寄岩林道バードウォッチング 参加13名 10ページ

6/18 第16回総会 ビストロ叶屋 参加23名

第16回総会は、叶津のビストロ叶屋でおこなわれ、平成27年度事業報告と決算報告及び28年度事業計画案

と事業予算案が無事承認されました。今年度の事業は、事業計画に添い、各担当者が計画を立てるようになります。役員改正は、会計担当が変わり他は留任されました。終了後は叶屋さんの御馳走で懇親を深めました。

5/11 只見の自然を楽しむ写真展 叶津・八十里庵 10、11ページ

10/3 おしゃべり会(例会) 館ノ川・めえって 参加11名 14ページ

10/16 只見の自然を楽しむ写真展 季の郷 湯ら里 14ページ

11/20 第13回 只見の自然に学ぶ会「震災と原発事故そして生き物たち」講師：稲葉修(南相馬市博物館) 只見振興センター 参加29名

終了後、懇親会 民宿ふる里 15ページ

12/7 忘年会 季の郷 湯ら里 参加10名 16ページ

*タイトルの写真は雪の中から顔を出すイタチ(大宮明撮影)



春植物とユビソヤナギと… 春の植物観察会

2016年4月12日

report ナカノトモコ

暖かな春、日差しの気持ちよい観察日となりました。

今日の観察会は12名が（私は生後3カ月のはじめ君を連れて！）参加しました。

まず、黒谷川の土手のフクジュソウを観察。河川工事にもめげずにフクジュソウはたくましく咲いていました。彩度の高い黄金色のフクジュソウは離れたところからも輝いて見えます。写真では中々その美しさは捕らえませんが、そこがまたフクジュソウの魅力かな？

ちょっと寄り道した土手沿いの民家近くでは、コウモリが落ちていました。一時みんなで花よりコウモリに夢中になりました。モモジロコウモリらしいとのこと。

カタクリの群生地は、やや花もピークを過ぎてお疲れの様子でしたが、なんと赤に近いピンク色のカタクリが！！びっくりぼんです。

黒谷川の林道では、土手下側にはたくさん咲いていましたが、フクジュソウは咲き終わりに近く、満開のフクジュ

ソウ群落を愛でることはできませんでした。林道の途中で見た秋田マタギの墓らしき大岩が印象に残っています。

続いて黒谷発電所へ渡る橋の上、ユビソヤナギ観察のはずが、只見では珍しいらしいスミレを発見し、写真をパシャリ。エイザンスミレだそうです。

そして、水溜りにカエルの卵と生まれたてのオタマジャクシがうじゃうじゃ。

肝心のユビソヤナギのことはあまり覚えていません（笑）。咲いてたり、もう花が落ちていたり、まだ咲いていなかったりしていたようです。

帰り道ではサシバも見ました。やっぱり猛禽類は佇まいが美しく惚れ惚れします。

と、盛りだくさんの観察会でした。

観察力の鋭い皆さんと一緒に歩くと、いろんな出会いと発見があり、とても充実した1日となりました、ありがとうございます！



黒谷川土手のフクジュソウ



コウモリの撮影に夢中です



鮮やかなピンクのカタクリ



黒谷発電所と町道をつなぐ橋上からユビソヤナギ林を観察



エイザンスミレ

◀黒谷林道脇の秋田マタギの墓があるという岩の前で説明する代表

沼ノ平を奥会津森林生態系保護地域に編入 学会の申し入れが実る

新国 勇

森林管理署に申し入れ(2016年3月10日)

会津森林管理署南会津支署に国有林野の保護林編入の申し入れをしてきました。平成29年4月から始まる第5次国有林野施行実施計画が実施される前に、意見書を提出するものです。5年ごとに国有林の伐採や保育などの管理計画を定めるのが国有林野施行実施計画で、この計画が策定される前に申し入れしないと、実行性がないのです。14年前、ブナ林伐採の反対運動をはじめたのも、この施行実施計画の策定前でした。

申入書は、浅草岳の沼ノ平周辺を森林生態系保護地域に編入してもらう内容です。ここは非常に繊細で壊れやすい自然環境からできています。森林生態系保護地域のコア(核心地域)に匹敵するほど自然度の高い場所に、多様な動植物が生息しています。奥会津森林生態系保護地域が平成19年にできたとき、ここだけが指定されていなかったのに、申し入れるものです。

森林管理署、県、市、事業推進者との意見交換会 (2016年6月24日)

会津森林管理署南会津支署が主催する「沼ノ平国有林に関する意見交換会」に出席してきました。森林管理署6名、南会津地方振興局2名、南会津農林事務所2名、只見町役場3名、只見町教育委員会2名、叶津区2名、只見町森林組合1名、日本野鳥の会南会津連合1名、只見の自然に学ぶ会1名という顔ぶれ。非公式の会ということで、式次第やレジュメなどは一切なし。最初に、南会津支署の川原支署長から、沼ノ平地域を「森林生態系保護地域の保全利用地区」にしたいという説明がありました。この提案について、出席者から意見をいただきたいとのことで会議がすすみました。叶津区は今までどおりなら異論なし、森林組合もコメントなし、学ぶ会と野鳥の会は今回の措置に賛成ということで、淡々と終わりました。

地元住民は、いままでどおり山に入ることができるのなら問題ないくらいのとらえ方でした。でも、これって、あぶないことです。知らないうちに、どんどん環境を変えられていくのですから。ともあれ、今回の沼ノ平地域を森林生態系保護地域に設定する方針が出されたことは、学会の運動の成果です。正論が通ったということもできます。ただ、残念なのは、地元役場は、なにが悪かったのか自覚していません。ユネスコエコパークとなって、目に見える

広告塔をつくりたがっているように見えます。今回の沼ノ平整備事業は、そのかっこうの材料でした。いま、わたしたちの存在意義は大きいといえます。

代表お疲れ様でした。すんなり決まって良かったですね。沼ノ平の貴重性が関係者に認められたということですね。森林生態系保護地域になると入山するにも許可が必要になると思うのですが、登山利用は無許可で大丈夫なんでしょうか？観光まちづくり協会で山神杉・ブナ太郎・ブナ次郎ツアーを組んでPRしていますが、沼ノ平は案内して駄目ということになるのでしょうか？

森林生態系保護地域の「保存地区」であれば、原則立ち入り禁止となります。保存地区とは、森林生態系保護地域のコア(核心地域)です。只見町内では、会津朝日岳付近から丸山岳付近のエリアです。今回の沼ノ平は、森林生態系保護地域の「保全利用地区」として指定される予定です。保全利用地区は、森林生態系保護地域のバッファー(緩衝地域)という位置づけです。したがって、地元住民が行う山菜採取や釣り、登山道を使った登山などのレクリエーションはできます。なので、沼ノ平に入られなくなるということはありません。

「森林生態系保護地域に指定されると、入林許可が必要か？」というおたずねですが、国有林に入る場合は、森林生態系保護地域でなくても原則すべて入林許可が必要です。でも、それは建前の話。そんなことをしていたら、森林管理署も国民も双方、えらい面倒なことになってしまいます。そこで、入林許可を求めるのは、学術調査を行うとか、イベントで大勢の人が入るとかいう場合などです。ですから、入林許可の心配はご無用です。

沼ノ平のツアーですが、今回の事業取り下げで、遊歩道や橋は作らなくなりました。全体が陥没、地滑り地形であり、山地災害危険地区に指定されている場所です。したがって、これまでどおり、地元ガイドの案内付きでのみ入山を認めるという方法で行ったほうがよいと考えます。たとえば、土・日20人の限定ツアーを組み、あふれた人は次回にまわってもらうというしくみをつくれませんか。制限を設けて、プレミアムをつけるやり方です。とにかく、だれでも、いつでも、たくさん入れろという観光目的だけの発想はつつしみたいものです。大内宿や花見山とはレベルがちがうのですから。

「季の郷 湯ら里」周辺調査結果

高原 豊、高原郁子

2013年に只見町青少年旅行村いこいの森（以下、旅行村）、2014年は要害山で環境省の里山モニタリングサイト1000の調査手法を用いて植物モニタリング調査を実施しましたが、2015年に同じ方法で温泉宿泊施設「季の郷 湯ら里」（只見町深沢地内）の敷地内から比良林公園までの林道・遊歩道で調査を実施しました（図1）。

積雪がない時期に、毎月1回（原則として第1日曜日）、同じコースを歩いて、蕾・花・実をつけている植物を見つけて名前を記録しました。その場で種名が分からないものは標本を採り、持ち帰って同定しました。シダ類は発見時に名前が分かるものだけ、同定が難しいイネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類、栽培種は原則として調査対象外としました。のべ36名の方にご協力をいただきました（表1）。

標高は450mから500mで、概ね勾配のゆるやかなコースですが、一部にやや急坂で道が荒れてしまったところがあります。「季の郷 湯ら里」や比良林公園の人工的な草地、池、水田、スギ植林地、多数の樹種からなる広葉樹林、ブナ二次林、開けたミズナラ林、放棄水田跡の湿地、クレー射撃場跡の土壌が発達していない広場などがあり、人の手の入り方が様々で多様な植生がありました。

調査の結果、231種が確認され、そのうち日本海側に特有なものや保護したい植物は28種ありました（表2）。旅行村では、それぞれ204種、32種、要害山では227種、29種でしたので、確認した植物は若干多かったものの特筆する種はわずかに少ない結果となりました。山岳的な地形でないためか、旅行村と要害山に生育していたオオイワカガミやオオイワウチワは確認できず、サワオグルマやトンボソウなど湿地に生育する植物が目立ちました。同じく旅行村と要害山の両地区に生育していたアカモノとウゴツ

クバネウツギのうち、アカモノは確認されましたが、ウゴツクバネウツギは確認されませんでした。ウゴツクバネウツギはやや乾燥した環境が必要なのかもしれません。

特筆すべきことに、全国的に希少で国の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているオキナグサの生育が確認されました。人が容易に立ち入れる場所なので園芸的な採取がされないよう注意し、保護すべきだと思います。県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているオオチゴユリと思われるものもありましたが、花期における確認ができませんでしたのでエダウチチゴユリである可能性もあります。また、開けたミズナラ林にオニノヤガラを多数確認しました。たくさんの株があり、こんなに密度高く生育しているのは初めて見ました。ラン科の植物は採取されやすいので、注意が必要です。

旅行村や要害山とは違ったさまざまな環境と多様な植物たちに会うことができたコースでした。

調査結果から、花暦を作成しました（表3）。春に花が咲くヒメオドリコソウ、スミレ、ツボスミレが11月にも開花していましたが、これは、2015年の11月は例年になく好天に恵まれ気温が高かったためと思われます。2015年から2016年にかけての冬は只見町では例年になく積雪量が少ない暖冬でした。

これらの草木を皆さんに楽しんでもらうとともに、いつまでも残っているように見守っていただければと思います。

最後になりましたが、調査にご参加いただいた皆さん、大変ありがとうございました。今年は蒲生岳の麓を調査したいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

表1 調査日と参加者

調査日	天候	調査人数	調査者(参加者)
5月6日	晴れ	8人	渡部和子、新国勇、朝廣貞子、熊倉恵子、高原豊、高原郁子、高原樹、高原朗
6月14日	晴れ	4人	新国勇、高原豊、高原郁子、高原朗
7月5日	くもり	4人	大宮明、高原豊、高原郁子、高原朗
8月2日	晴れ	5人	大宮明、大宮みゆき、高原豊、高原郁子、高原朗
9月6日	晴れ	7人	大宮明、大宮みゆき、濱口喜博、濱口徳江、高原豊、高原郁子、高原千絵
10月4日	くもり	5人	大宮明、大宮みゆき、新国勇、高原豊、高原郁子
11月1日	晴れ	3人	渡辺和子、高原豊、高原郁子
		計7回	のべ36人

図1 2015年調査コース





規模は小さいがブナ二次林が残る



オニノヤガラ



コシノコバイモ(上)とコシジシモツケソウ(下)

表2 「季の郷 湯ら里」周辺の特徴的な植物・注目すべき植物

種 名	科 名	日本固有	特徴等
オキナグサ	キンポウゲ科		絶滅危惧Ⅱ類(環境省)、準絶滅危惧(福島県)
オオチゴユリ	ユリ科		絶滅危惧Ⅱ類(福島県) 花を確認していないのでエダウチチゴユリの可能性もある
タイリンヤマハッカ	シソ科		新潟県から東北南部の日本海側に生育
イワナシ	ツツジ科	●	北海道西南部と本州の主として日本海側の山地に生育
オオバクロモジ	クスノキ科		北海道の一部と東北地方、日本海側の山地に多い
クロバナヒキオコシ	シソ科	●	北海道と本州の日本海側に生育
オクチョウジザクラ	バラ科		本州の日本海側に生育
ホナガクマヤナギ	クロウメモドキ科	●	本州の日本海側の山地に生育
ムラサキヤシオツツジ	ツツジ科	●	北海道、本州の東北地方および中部地方の日本海側で生育
トウギボウシ	クサスギカズラ科		うるい 日本海側に生育
ヒメアオキ	ガリア科	●	日本海要素の植物
コシノコバイモ	ユリ科	●	日本海要素の植物、準絶滅危惧(福島県)、春植物、園芸的採取の恐れ
コシジシモツケソウ	バラ科	●	日本海要素の植物
エゾアジサイ	アジサイ科	●	日本海要素の植物
キタコブシ	モクレン科		日本海要素の植物
タニウツギ	スイカズラ科		日本海要素の植物
アカミノイヌツゲ	モチノキ科	●	日本海要素の植物
クモキリソウ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
ササバギンラン	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
オオヤマサギソウ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
ヤマサギソウ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
トンボソウ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
キソチドリ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
ミヤマウズラ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
アリドオシラン	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
アケボノソウ	リンドウ科		園芸的採取の対象となるので保護に留意 2年草 湿潤地に生育するためか少ない
イチヤクソウ	イチヤクソウ科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
オニノヤガラ	ラン科		ナラタケと共生する 密度高く生育しているのは珍しい

凡 例

注) 蕾(つぼみ)と花、花と実が同時に確認されたものは「花」として表示している。

種名の は日本海側に特有のものや、保護に留意すべき植物

表3 「季の郷 湯ら里」周辺の花暦(2015年調査)

No.	種 名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	キクザキイチゲ	花						
2	キケマン	花						
3	キタコブシ	花						
4	キブシ	蕾・花						
5	イタヤカエデ	花						
6	ヒメヤシャブシ	花						
7	フキ	花						
8	ミチタネツケバナ	蕾・花						
9	オクチョウジザクラ	花						
10	ハウチワカエデ	蕾・花						
11	アオイスミレ	花	実					
12	イワナシ	蕾・花	実					
13	カタクリ	花	実					
14	コシノコバイモ	花	実					
15	ショウジョウバカマ	花	実	実				
16	スミレサイシン	花		実				
17	ブナ	花						実
18	アブラチャン	花		実	花	実	実	
19	ヒメオドリコソウ	蕾・花	花					花
20	セイヨウタンポポ	蕾・花	実	花	実	花	実	実
21	オオカメノキ	蕾						
22	アギスミレ	蕾	実					
23	オオタチツボスミレ	蕾	実					
24	ミヤマカタバミ	蕾	実					
25	ヒメアオキ	蕾	実					
26	オキナグサ		実					
27	ギシギシ		実					
28	コハウチワカエデ		実					
29	ノミノフスマ		実					
30	エンレイソウ		実	実				
31	ヒトリシズカ		実	実				
32	オオバクロモジ		実	実	実	実		
33	アクシバ		実					実
34	ミヤマガマズミ		実	実	実	実	実	実
35	サワオグルマ	蕾	花					
36	アカモノ		蕾・花					
37	オニアザミ		花・実					
38	キシウブ		花					
39	キュウリグサ		花・実					
40	ギンリョウソウ		花					
41	クリ		蕾・花					
42	ケナシヤブデマリ		花					
43	コオニタビラコ		花					
44	ササバギラン		花					
45	サラサドウダン		花					
46	サワハコベ		花					
47	ハナニガナ		蕾・花					
48	ミヤマカンスゲ		花・実					
49	ムラサキツユクサ		花					
50	ヤブデマリ		花					
51	ヤマツツジ		花					
52	ナズナ		花・実					
53	ヒメウスノキ		花					
54	フデリンドウ		花					
55	クマイチゴ		花・実	実				
56	タチイヌノフグリ		花・実	実				
57	タニウツギ		花	実				
58	ツルマンネングサ		花	実				
59	フタリシズカ		花	実				
60	ハクウンボク		蕾・花		実	実		
61	マムシグサ		花	実	実	実	実	実
62	コマユミ		花				実	実
63	サワフタギ		花・実			実	実	実
64	タチシオデ		花・実	実	実			実
65	チゴユリ		花・実	実	実	実	実	実
66	ヒメハギ		花	実		実	実	実
67	ツメクサ		実	花・実				
68	アリノトウグサ		蕾・花	蕾・花				
69	イワニガナ		花	花				
70	トキワハゼ		花	花				
71	ヒメヘビイチゴ		花・実	花				
72	ミヤコグサ		花	花				
73	ウワバミソウ		花	花	実			
74	ハルジオン	蕾	花	花	花			
75	オランダミミナグサ		花	実	花・実			
76	ハハコグサ		花	花	花			
77	ヘラオオバコ		花	花	花			実
78	ミズタビラコ		蕾・花	花・実	花・実			
79	シロツメクサ		花	花	実	花	実	
80	コナスビ		花	花			花	
81	ムラサキサギゴケ		花			花	花・実	花・実
82	オッタチカタバミ		花・実	蕾・花・実	実	花・実	実	花・実
83	オオチゴユリ		蕾					
84	ミヤマナルコユリ		蕾					
85	ミズ		蕾					
86	オニノゲシ		蕾		実			
87	ヤマグル			実				
88	ハナヒリノキ			実		実		
89	エゾノギシギシ			実	実			実
90	ツルアリドシ	実	実	花		実	実	実
91	ノアザミ		蕾	蕾・花	花・実	実		
92	クモキリソウ		蕾	花	実	実	実	実
93	ウツボグサ			蕾・花	花	花・実		
94	エゾアジサイ			花	実			
95	オオバコ			花・実	花・実	実	実	実
96	オニノヤガラ			花	実			
97	カタバミ			花・実	花・実			
98	キンボウゲ			花				
99	コシジシモツケソウ			花	実	実		
100	ダイコンソウ			蕾・花	花・実	実		
101	チドメグサ			花・実	実			
102	トウギボウシ			蕾・花	花	実		
103	ドクダミ			花	花・実	実		
104	トチバニンジン			蕾・花				
105	ニガナ			蕾・花	実			
106	ノゲシ			蕾・花・実		花		
107	マタビ			花		実		
108	ムラサキツメクサ			花	花	花	花・実	
109	ムラサキヤシオツツジ			花				
110	ヤマブキシヨウマ			蕾・花	実	実		
111	エゾユズリハ				実			
112	キクバドコロ				実			
113	アキノエノコログサ				実	実	実	
114	ルイヨウボタン				実	実	実	
115	サワヒヨドリ			蕾				
116	ホナガクマヤナギ			蕾				
117	オオウバユリ			蕾				
118	ウマノミツバ			蕾	実	実		実
119	イチヤクソウ		蕾	蕾	実	実	実	実
120	クマヤナギ			蕾	花			

No.	種 名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	No.	種 名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
121	トリアシショウマ			蕾	花・実	実			185	ミヤマウズラ					花		
122	オカトラノオ			蕾	花・実	実	実	実	186	ススキ					花		
123	ヤマユリ			蕾	花	実			187	タムラソウ					蕾・花		
124	イタドリ				花	実			188	ノブキ					花・実	実	
125	オオヤマサギソウ				蕾・花				189	ミズヒキ					花・実	実	
126	オニドコロ				花				190	ジャコウソウ					蕾・花	実	実
127	キキョウ(植栽)				花				191	ミヤマママコナ					蕾・花	実	実
128	キソチドリ				蕾・花				192	チヂミザサ					花・実		実
129	ケキツネノボタン				花・実				193	タイリンヤマハッカ					花	花・実	
130	コオニユリ				蕾・花				194	ツリフネソウ					花	花・実	
131	トウバナ				花				195	ノコンギク					花	花	
132	ヒメナミキ				花				196	ゲンノショウコ					花	花・実	
133	ヒメムカシヨモギ				蕾・花				197	モリアザミ					蕾・花	花	
134	ミヤマトウバナ				蕾・花				198	ミゾソバ					花	花	実
135	ニガクサ				花				199	ホツツジ				蕾	蕾・花	花・実	実
136	ヤブガラシ				花				200	クロバナヒキオコシ					蕾・花		花・実
137	ヤマサギソウ				花				201	オトコエシ				蕾	花	実	花・実
138	ヤマニガナ				蕾・花				202	ツルリンドウ				蕾	花	実	花・実
139	クズ				花			実	203	ツユクサ					花		花
140	スベリヒユ				花	実			204	アキカラマツ					蕾		
141	タケニグサ				花・実	実	実	実	205	アケボノソウ					蕾	実	実
142	トンボソウ				花	実			206	ヨモギ					蕾	実	実
143	ミツバ				花	実			207	アメリカセンダングサ						実	
144	ミヤマイラクサ				花	実			208	オヤマボクチ						実	
145	メタカラコウ				花	実	実	実	209	ツリバナ						実	
146	メヒシバ				花	実		実	210	ナギナタコウジュ						実	
147	コウゾリナ				蕾・花	蕾・花・実			211	ヒメユズリハ						実	
148	コニシキソウ				花	蕾・花			212	オオバクロモジ						実	実
149	アカソ				花	花	実	実	213	ノブドウ						実	実
150	オトギリソウ				花	花	実		214	ツルニンジン					蕾	花・実	
151	カントウヨメナ				蕾・花	花・実		実	215	ゴマナ					蕾	花	
152	ヌスビトハギ				蕾・花	花・実	実	実	216	ヤナギタデ						花	
153	ネジバナ				花	花・実			217	サラシナショウマ						花	
154	ハエドクソウ				花・実		実		218	シラヤマギク						花	
155	ヒメキンミズヒキ				蕾・花	蕾・花	実	実	219	ダンドボロギク						花	
156	ヒメシロネ				花	蕾・花	実		220	ヒガンバナ(植栽)						花	
157	イヌゴマ				花	花	花		221	メナモミ						花	実
158	ヒヨドリバナ				蕾・花	蕾	花		222	アキノキリンソウ					蕾	花	花・実
159	ヒメジョオン		蕾	蕾	実	蕾・花	花	花	223	アカミノイヌツゲ							実
160	タチアザミ				蕾				224	イヌツゲ							実
161	ヤマノイモ					実			225	ナンブアザミ							実
162	アブラガヤ					実			226	ホオノキ							実
163	シオデ					実	実		227	ミヤマカラマツ							実
164	カヤツリグサ					実	実	実	228	ヤブレガサ							実
165	キンエノコロ					実	実	実	229	セイタカアワダチソウ						蕾	花
166	キンミズヒキ				蕾	花・実			230	スミレ			実	実			花・実
167	モミジガサ			蕾	蕾	花・実	実		231	ツボスミレ							花・実
168	ウド				蕾	花・実	実	実									
169	アカバナ					花・実											
170	アキノノゲシ					蕾・花											
171	アリドオシラン					花											
172	アレチマツヨイグサ					花・実											
173	イスタデ					花	実	実									
174	イボクサ					花											
175	エノキグサ					花	実										
176	カワラケツメイ					花											
177	キツネノボタン					花・実											
178	ギンリョウソウモドキ					花											
179	クサボタン					蕾・花											
180	ヤマハギ					蕾・花											
181	ムカゴイラクサ					花											
182	ツルフジバカマ					花											
183	ハナタデ					蕾・花											
184	ボタンヅル					花・実											

参考文献

- 会津只見の自然 只見町史資料集第4集【植物編】(只見町史編さん委員会、2001)
- レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I (環境省、2015)
- 学ぶ会通信 vol.9、vol.10 (只見の自然に学ぶ会、2015、2016)
- 日本の野生植物 I～Ⅲ(佐竹義輔ほか、平凡社、1981-1982)
- 日本の野生植物 木本 I・Ⅱ(佐竹義輔ほか、平凡社、2004-2005)
- 維管束植物分類表(米倉浩司、北隆館、2013)
- ウィキペディア日本語版(<https://ja.wikipedia.org/wiki/>)
- 国立環境研究所ホームページ(www.nies.go.jp)
- 国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)

会員からの只見自然情報

学ぶ会メーリングリスト (2016.1.18 ~ 2016.12) より

2016.1.18 オオミズナギドリ

ブナセンターにオオミズナギドリが届いたという連絡があり、行ってきたずや。入叶津の人が見つけで、数日飼っていたちゅうごんだが、死んだんで、持ってきたどっちゅう。この鳥は、よく只見さ、迷い込んで来る。日本海の沖合にいだあなが強風に飛ばさっちえ、来んだべな。冬に多い。落ちると、わーでは飛び立てねーがら、人間に捕まっちもーごどになる。まだ、この鳥は、人を怖がねえな。むかし、なつて飼わっちえいだな、いだっけな。ちなみに餌は刺身だっけ。



これは、オオミズナギドリの嘴の上にある「塩類腺」だぞや。塩類腺は、海鳥だけでなく海亀にも付いてる。海水の塩分を濾し取って排出する器官のごんだ。これ、撮っちゃがったんだ。死んだんでねえど、ながなが、こーは撮れねえ。死体はありがてえもんだ。 イサム



1.26 ウミネコ

只見湖さ、行ってきたパトロール結果だぞや。ウミネコの若鳥が1羽いだっけ。



オオミズナギドリもそうだども、冬になると、海鳥がよく来んな。冬以外は、あんま、ねえ。やっぱ、雪をもって来るシベリヤ寒気団の風がすげえだべな。湖の真ん中にいっがら、見てみつけやれ。ただ、人を見っちゅうど、すんま、飛んでしまって、湖を低空飛行しんずや。

イサム

1.27 ハエかと思ったら…

室内で、初めて見た虫を調べたら、キアシブトコバチ(黄足太小蜂)のようです。「体長5-7mm。体は黒色。後脚の腿節は黒色で、先端部は黄色。モンシロチョウ、マイマイガなどの鱗翅類の蛹に寄生する」とあります。さて、去年のマイマイガ発生 of 急激な終息は、ウイルス説が有力ですが、この虫も寄与しているのではないのでしょうか？ a-killer



1.28 スズガモ

只見湖パトロール通信の第2信。スズガモのオス1羽とメス2羽、いだっけぞや。このカモは、いっぺえいっとごにはたいしたいんだども、只見では、毎年数羽程度だな。潜って水草を食ってだっけ。キンクロハジロもそうだども、目つきがヤーさんっぽい。いっつも、怒っているような顔しでるな。 イサム



01.30 雪坊主出現

おらいの泉水(池)の真ん中にある岩の上に、子めらがしがみついでいだっけ。湿った雪の日は、こだ雪の造形が見らっちえ面白っしえーな。「岩につかま

る雪坊主」ちゅう名前はどうか。 イサム



2.9 驚きました

この造形にはビックリ……。 毘沙沢



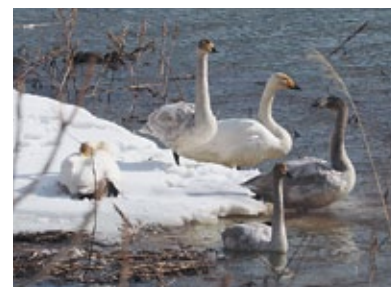
2.9 はぐれザル

新町付近にはあまりサルはいませんが、一昨日足跡を見つけました。柴倉橋の上でウサギの足跡の写真を撮ってる数分の間に、私のすぐ後ろまでサルの足跡が。橋を渡ろうとしたけど、変な人間がいるなーと思って引き返した模様。次の日、足跡を追跡してみると新屋敷方面の家々の間をぬうように移動しました。足跡は一頭分だけなので、はぐれサルみたいです。堅雪の日はいろんな動物の足跡を追跡できて面白いですね。 万寿美



2.11 滝湖の白鳥

きょうの午後、滝湖さ、行ってきただ。全部で30羽いだっけ。オオハクチョウ



が6羽で、あとはみんなコハクチョウだ。大洪水の後、川が変わっちゃって、しばらく来ながつけど、戻りつつあんのがもしんにえ。んじゃども、今年は暖ったげえがら、戻り足のハクチョウが混ざってんがもしんにえな。イサム

3.4 雪笑う

今朝の外の風景、見やったがい？ 雪面に、いっぺくぼみがあっぺえや。「雪エクボ」っちゅうあんだ。一面に雪が笑っているだべや。ちなみに斜面にある縦筋は、「流れエクボ」っどっちゅう。雪エクボも流れエクボも、気温が上がって、雨が降ったりしたあとの翌朝、よく見られんぞや。これができっど、春も近えな。イサム



3.16 クイズです

さて、家の西側でカタクリが芽を出しました。ここで問題です。このカタクリの最初の一輪はいつ咲くでしょうか？ 正解者には厳正なる抽選の上、豪華賞品（山菜セット）をお贈りします。参考までに、2013年は4月14日、14年は4月13日、15年は4月16日でした。皆さん奮ってご参加ください！ なお、正解者がいない場合は一番近い人を抽選の対象とします。私の予想は4月10日で…。 a-killer



3.17 東京のシンポジウム

3月19日に、東京で開催されるシンポジウムに学会代表として出席してきます。人間文化研究機構が主催する「人文学の知の展開」というシンポジウムです。主催者もテーマも「？」という感

じ。わかりやすいくいうと主催者は、6つの国の研究機関が集まった団体。つまり国の研究機関が開くシンポジウムです。だから後援するのも文部科学省。大雑把に言えば、自然と人間の向き合い方を問い直すのがテーマで、3つある項目のなかの3番目に出ます。時間は65分間です。ここで、自然と文化を見直すことで地域づくりをしている只見町の事例を発表します。これは、只見町の地域づくりのあり方が国に評価されているともいえるでしょう。今回のシンポジウムを皮切りに、今後5年間、同機構が研究・調査を進めていくということです。もちろん只見はその研究対象の有力地です。これは学ぶ会だけでなく、只見町にとってもたいへん名誉なことです。イサム

シンポジウム参加報告

神奈川県海老名市のSです。私もシンポジウムに行ってきました。県立博物館の佐々木長生先生も来られていました。シンポジウムは、いくつかある国の人文系の研究機関で垣根を超えてテーマを研究していきましょう、という活動のキックオフ的なものでした。

勇さんは地域文化のなかで、神戸大学で震災と地域連携のことなどを研究している奥村弘教授と会談され、最後のパネルディスカッションで登壇、発表されてました。

只見町は、学術調査がなされるだけでなく、『広報ただみ』などを通して住民にも、その価値が分かる形でフィードバックされる、という流れによって、いままで普通にあると思っていた只見の自然や文化の価値に気づいてもらうことができ、それが良い形でできているんだよ」という話でした。

パネルディスカッションでは、「只見の巻物文化」が特に登壇者の関心を呼んでいました。今でも只見の棟梁が免許皆伝の巻物を受け継いでいることは、非常に珍しいことのように。確かに、私も他でそんなことをやっているのを見聞きしたことはないです。棟梁の受け継ぎ、見てみたいなあ…。それと、「只見の方言資料集」が、特に評価されてました。最後に、勇さんは「只見町の活動は確立しているから、このままやっていくよ」という旨の強い言葉でしめておられました。貴之

3.21 フクジュソウ開花!

きょう、坂田に行ったら、道路わきの斜面がフクジュソウで真っ盛り。ここは、どこよりも早く咲くども、そんじえも例年より2週間は早えな。今年の天気はいったいどうなっただべな。イサム



3.24 カモシカ

雪が少ないので町議会議員候補の宣伝カーが毘沙沢にも入る今年。庭先に、カモシカが顔を出しました。器楽(ホルンとフルート)の練習中でしたから、心地よい音に誘われたのかなとも思いますが。カモシカにとって、安心できる環境になってきたのかな、と推察します。嬉しい出来事でした。毘沙沢



4.1 カタクリ開花報告

a-killerさんに依頼され(3.16 クイズです)、カタクリの開花情報で一す。咲きました。本日、11時の確認です。大宮さんも確認されました。浜ちゃん

4.6 中ノ平のカモシカ

ヤマサの順子アネから、カモシカ出現の一報があって行ってきたずや。ヤマサ商店の真ん前の崖下の急斜面を悠々と歩いていだっけ。カタバ(カタクリ)の葉っぱをむしゃむしゃ食って、たいした肥えでだっけ。あんま近くのんだ

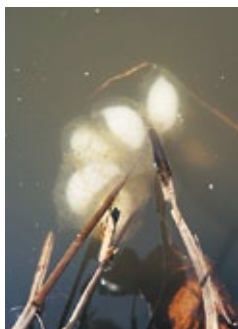


がら、落ち葉の踏む音もよく聞こえつ
げ。全体に白っぽいあんだども、顔の中
央がやけに茶色っぽく見えつげ。よっ
ぱら撮ってたら、ソバ食ってげちゅう
ごどになって、ごっつおになってきた
だ。鍋焼き風ソバで、ソバに汁の味が
しみ込んで、ばがうまがったぞや。こん
だ、八十里庵で食ってみっぺ。 イサム

4.8 ツバメ初確認

ざっと見て報告なかったので、今年初
確認ですかね。さっき外に出てみたところ、
電線にツバメがとまっているのを確認。
良く見てみれば羽が濡れていて、
疲れたような雰囲気。昨日の雨に打
たれて休憩中？ 朗

4.12 サンショウウオの卵



すでにクロサン
ショウウオの産卵
は終わっています。
昨年より1月近く
早い産卵でした。
水温と雪解けの状
態で産卵時期を決
めているようです。
毘沙沢

4.15 黒谷川のキタコブシ

様子を見ていたコブシですが今日確認
したらポツン、ポツン、ポツンと花の開
花が増えてきました。そして周りの桜
や梅も咲いてきました。もしかすると
5月の連休前に木々全体が開花するか
もしれませんね。 カナ



4.27 ヤマナシ?

自近所に梨の木があって、満開です。今
は葉も出てきてますが、先週はもっと
花が多かったかと思います。遠くから
でも結構目立っています！ カナ
このナシノキは、沢口の道下にある木
だべや。今のところ、これはナシノキで
は町一番の巨樹だと思う。むかしは、各
家に1本ぐれえ、必ず植えてあって、学

校帰りのこめ
らの格好のお
やつだったっ
けな。だども、
それから豊か
な時代になっ
て、誰も食わな
くなってきて、
邪魔だどって、
ほとんど切られ
てしまった。



いまになって、改めて見回すと、ねっか
見当だんなくなっちまった。そだごども
あって、このナシノキの巨木は、貴重
なあになっちまったな。 イサム

5.9 寄岩バードウォッチング

過去まれにみる大勢の参加者と
過去最低の鳥数

8:30から13:00まで、寄岩林道で恒例
バードウォッチング。開催史上初のゼロ
歳児から熟年者まで13名というまれ
にみる大勢の参加者。土日曜日より平
日のほうが人が集まるということは、
会員の年齢構成からするとうなずけま
す。しかし、出た鳥は過去最低でした。
オオルリ、キビタキ、メジロ、カワラヒ
ワ、ヒヨドリ、ノジコ、ホオジロ、ウグイ
ス、モズ、オシドリ、ハシボソガラスの
11種のみ。あまりにさびしい成果でし
た。

今年の寄岩は鳥がほんとうに少なか
ったようです。ふつうなら20種は見られ
るのですが…。少ない理由はふたつあ
ると思います。ひとつは、工事中
だったことです。滝湖から浚渫した土
砂の残土置場をつくるために重機がう
なり、林道の舗装工事もしていて騒が
しかったのです。繁殖をする鳥たちに
とっては安心して子育てできる環境で
はありません。ふたつめは、林道が運
搬道路となったことで、釣り堀が見捨
てられたことです。毎年、釣客を入れる
ために釣り堀への道を維持管理してい
たのですが、今年はまったく放置されて
います。適当な手入れがなされなかつ



ことで、植物の生育が旺盛です。適度な
森林空間が失われ、下草が伸びてしま
い、明るい林野を好む鳥たちの住める
場所ではなくなってきているのです。
その証拠に、チゴモズやオオヨシキリ、
ノスリ、サシバといった鳥が見られま
せん。長年、ここで鳥を見てきましたが、
ちょっと、きびしい現実です。

イサム

5.10 私にもタラの芽ください

昨日の鳥見、ご苦労様でした。初参加な
のに鳥の種類が少なく残念でしたが、
モズのメスはばっちり見られましたね。
昼飯の八十里庵の気まぐれセットも相
変わらず美味しかったですね。きょう
午前中は晴れて、エゾハルゼミの合唱
が聴かれました。初認は一昨日です。
さて、写真はご覧のようにモリアオガ
エルのメスです。何故とげとげのタラ
に登るんでしょう？ a-killer



5.11 自然を楽しむ写真展

本日より、八十里庵にて「只見の自然を
楽しむ写真展」を開催しております。会
員の皆様のご自慢の写真をKさんが
すばらしいデザインで仕上げてくれま
した。できればに、ヤマサ八十里庵社長
もニンマリ。お食事がてら、ぜひ、おい
でください。 イサム



5.13 只見ってスゲー!!

きょうの新聞各紙に、只見で16世紀の
中世写本が見つかったことが報じられ
てんな。県内では初めてだそう。福島
や若松の大寺院や旧家ならいざ知らず、
只見の普通の家で見つかったじゅう。
いまテレビでやってる真田丸のころ
だあ。こだころから、はあ只見には中央

の文化が入っていただな。秘境どが奥地どがいうのは、近代になって言われたことで、この時代はそだ意識はなかったべな。ほしい情報は、自ら歩いて行って写し取ってきたんだべな。田舎は不便だなんて考えはなかったと思う。それにしても、只見の人は、自然も文化もたいせつに生きてきたちゅうごんだべな。只見ってスゲーな。 イサム



5.13 館岩の子ふくろう

初めて投稿します。館岩の巣箱から子ふくろうが顔を出しています。あんまり可愛いので投稿しました。携帯カメラです。 Lily



5.15 サンショウウオ

クロサンショウウオの卵はカルガモ(?)の餌になったようです。木の枝に産み付けられたカエルの卵も食べられた様子。残された卵の一部は乾燥してカリカリ状態。アカハライモリの攻撃を気づかって避難させておいたハコネサンショウウオの卵が孵化し、今日、幼生を産卵地に戻しましたよ。何匹生き残って大人になれるのか。 毘沙沢



5.18 小さな鳥です

見つけるのが遅かったので状態が良くありません。小さな鳥です。図鑑で探しましたが、ショウドウツバメには小さい? 毘沙沢



この鳥は、コサメビタキの幼鳥だべな。くちばしの根元がまだ黄色だ。いろいろな角度から撮ってあったんで、すぐわがったぞや。おとなしくて目立たねえ鳥だずや。そういえば、最近見なくなっちゃったな。こだ鳥が窓にぶつかるぐれえ環境のいいとこだちゅうごった。 イサム

5.20 自然を楽しむ写真展

福島民報の記者さんが取材にきました。和子さんが対応してくださいました。写真展にお客様が来てくれます。昨日は写真家の方が見えました。 夢街道

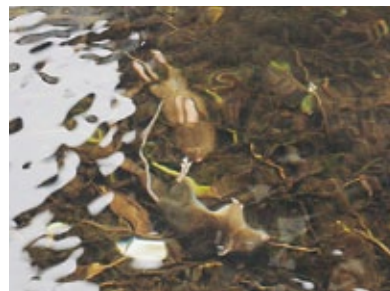


6.14 ホタル情報

先ほど、黒沢のホタル観察ポイントでホタルを確認しました。杉林でゲンジ7・ヘイケ1、田んぼでゲンジ4・ヘイケ1、橋でゲンジ3、集落付近の田んぼでゲンジ3。橋でホタルを見たのは大洪水以来で初めてです。ホタル復活! ゆたぽん

6.18 ネズミの大量死!

おらいの下っ手の泉水(池)をのぞいたら、ネズミの死骸がたいした沈んでいだぞや。うわっかだけ数えでも、ざっと40匹はいだな。折り重なっていながら、下のほうにも、まっと沈んでっぺな。山にいるアカネズミだと思う。



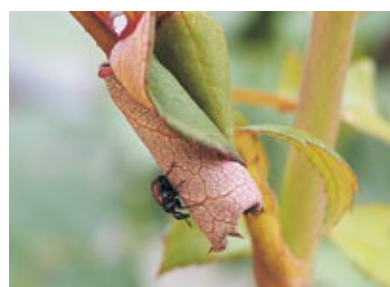
ちょうど10年前の2006年の6月もそうだった。どっちも共通した自然現象がある。前の年にブナが大豊作だったごんだ。10年前のほうが、まっと凄かった。堀や池、田んぼに厚く溜まってだもんな。それも、蒲生や只見、楡戸、黒谷入の水路や田んぼに集中した。明和地区ではなかったようだ。それは、ブナの分布域に重なっている。ヨーロッパにはレミングちゅうネズミがいて、大発生すっど、みんなして海に落ちで自殺しちゅうじゅう。只見のネズミも、前の年、ブナの実をたらふく食って数を増やしたんだも、今ごろになって食い物がなくなって山から降っちえ、水路に身投げしたんだろうか? これって、ネズミによる無意識の個体数調整? はたまた、異常な個体数増加による異常な事故死? イサム

6.19 馬尾の滝

塩沢川の奥にある馬尾の滝に行ってきました、V字谷で道なき藪漕ぎと雪溪に阻まれ、4時間後にやっと滝に到着。高齢化で山に入る人がなく、山は荒れてきてますね。むかし、ゼンマイ小屋があった所で太いゼンマイがありました。帰路、只見で一番太い塩沢のブナが倒れた情報をもらっていたので確認してきました。貫禄のブナの最後を見届けました。 和子

6.22 オトシブミ

いまの時期、オトシブミが忙しいな。オライの家のバラの木で、オトシブミが葉っぱをせっせと巻いていたぞや。1cmもねえ小っちゃ体で、けっこう早



ぐ動き回るんで、カメラで追うのがたいへんだったずや。数百枚撮って、見られんがなは数枚だ。しかし、たじまじ、葉っぱを巻いちもうな。小さな稼ぎっぱりってどごだ。 イサム

6.27 激突

先ほど、我が家の窓に左顔面を強打してホトトギスがぶつかりました。まだ生きていますが、はたして飛べるのか心配です。 毘沙沢



激突した鳥は、大きさからいっておそらく赤色型のホトトギスの若鳥がなと思うぞや。カッコウの仲間、カッコウ、ホトトギス、ツツドリ、ジウイチの4種類いで、只見ではみんな棲んでいる。そして、姿かたちがそっくりだ。姿はおんなじでも、鳴き声はすばらしく違う。鳴いてくれば、一発でわがっども、こうして落鳥となって手にとつと、すばらしくわがらなぐなつちもう。この仲間の見分けは、腹の縞模様の^{あんべえ}按配が決め手だぞや。こんだ、つかめえだどぎは、腹も撮っておいでくんつえ。イサム

6.27 今日ホタル観察日和

黒沢のホタルを見て来ました。現地で大宮さんご夫妻と遭遇したので、一緒にホタル観賞させて頂きました。すでにゲンジよりヘイケが優勢。ゲンジ15匹ぐらい、ヘイケ40匹ぐらいでした。そのあと、三ツ石神社駐車場付近を探してみましたが発見できませんでした。これからなんでしょうか…？ ゆたぽん

6.28 珍しい事2件

1 お昼前にオオアカゲラを見ました。写真を添付します。

2 13時少し過ぎに(ニホン)ノウサギが文字通り脱兎の如く走り来て走り去りました。と、すぐに(ホン)テンが走り来て道の角で少し迷った後、脱兎となって追って行きました。その後のテンマツは分かりません。夏毛のウサギとテンを見たのは初めてです。残念ながら写真を撮っている暇はありません

でした。

a-killer



これはアカゲラの雄だべな。背中に、大きな白い逆八の字の斑があるのが特徴だずや。アカゲラは、人里に多いな。オオアカゲラは、奥山では見られども、里には、あんまやってこねえ。すばしっこくで、すんま、幹の後ろに隠れちもうがんで、ながなが写真撮んのむずがしいだで。だども、この写真、うまぐ撮ちえつぞや。

ノウサギを襲うテンが見られつどは、a-killerさんがいは、長浜サファリパークだべな。観光ツアーに組みこんだらどうだべ。 イサム

7.6 アカショウビン

今年は家の周辺で活動しているのを楽しみにしていたのですが、昨日悲劇が起きました。窓に激突して即死です。冷凍庫で保管しています。何かの機会にブナセンターに届くようにします。

毘沙沢



7.10 飲み込む力

実物を見て、改めて飲み込む力に驚きます、そして足から飲み込むのは意外でした。下半身はすでに消化が始まっていました。

毘沙沢

車でひかれた直後の写真とのことで安心したぞや。どーも、相手がヘビだと無駄な殺生がよくあるもんで。ヘビとカエルは、生態系を支えている大切な生



き物。こんな光景が、すんま近くで見られるのも、毘沙沢の自然がすぐれている証だべな。うらやましい限りだずや。あど、このヘビはヤマガチ(ヤマカガシ)だ。んだども、珍しい個体だ。ブナセンターの標本にしたがった。ヤマガチは、水辺にいで、カエルを専門に食ってんがんだ。どきどき、でつけえカエル呑み込んで、腹がバカ太くなって、タワラヘビ(ツチノコ)に間違えられるごどがある。 イサム

7.15 オオコノハズク

今朝、塩沢のキュウリ畑の防鳥ネットにかかっていたのを届けてもらったあなだずや。これはたいへんめずらしいあんだ。ぱっちり目を開けつど、ぬいぐるみみでえだ。んじえも、手でもつと、カッチッ、カッチッつくちばしを鳴らして威嚇すんぞや。あど、脚の爪でつかまれつど、たいした痛え。野外では、ながながめつけらん^えにあんだども、網にかかったり、家の中に迷い込んだりして確認することが多いな。ネズミや小鳥を食うフクロウの仲間だぞや。じつは、このオオコノハズク、くたびつちえんだで。元気だったら、まっと耳羽をお立てて、眼光鋭い精悍なフクロウなんだども、そだどぎは、めつけらん^えにえで、傷ついだり、弱つたどぎにしか、出会う機会がねえので、こだ写真になつちも一だで。 イサム



7.19 ヘビがでました

猫がまた捕まえてきました。何という蛇ですか。袋に入れておいたのですが暑さで死んでしまいました。細くて長い蛇でした。 夢街道

これは、ヒバカリだべや。のどの下からあごにかけて、白い線が入ってつべや。これがヒバカリの特徴だずや。噛まれつと、その日ばかりの命ちゅうぐんで、ヒバカリ^りちゅう名前がついたんだずや。んじえも、無毒の蛇で、ばーかおとなしいあんだずや。水辺にいで、

オタマジャクシや小魚なんぞ食う面白っしえ蛇だぁ。 イサム
ヒバカリは本当に性格が優しいヘビです。通常茶色が多いですが、これは黒化型です。さらに珍しい！ 万寿美



8.9 高灯籠

8月に入っと、ゆんめって(家の前)に高灯籠を立てる家が目立ってくる。細い杉の間伐材を切り出して、先端部だけ杉の葉っぱを残してあとはすべて皮を剥いで、その上に横棒を十文字に結わえておいて、灯籠をともしあんだ。死んでまだ日の浅い人は、お盆に自分の家に帰る際、わからなくなならないように、目印として立てんだそう。お盆前に家族が亡くなった新盆の家が、3年間行かう盆行事だ。近ごろは、間伐材が手に入らなくなったもんだから、やらない家が多くなっちゃった。んじえも、この高灯籠、集落によって飾りが違っているのが面白っしえー。黒谷にあったのは、高灯籠の先端部から横棒の両端をつなぐ縄に杉の葉が刺してあつけ。こだごをやる家は珍しくなっちゃった。金山町の本名あたりでは、杉葉でなく、折り紙を使ったきれいな御幣が刺してある。そして、二軒在家で見つけたのは、灯籠にきれいな七夕のような飾りがついてい。これには、ちっとたまげた。家の人に聞いてみたら、「むかしっから、そうしっただが



ら」っちゅうごどだっけ。高灯籠にも、場所や家によって、さまざまあんだなと感心しでんだ。でも、高灯籠を立てるどこは、あんまねえな。オラが見だどころ、上流は館岩あたりがら、下流は金山町の本名集落あたりまでであんめえが。それが、集落ごとにちとずつ飾り付けが違ってるのが面白っしえ。あど、この高灯籠、オラは佐渡島で見たごどある。はあ、15年前ぐれえ前の話だ。いずれにしても、古い風習であるごどには間違いあんめえ。 イサム

9.2 刈り残し

私は草刈り機を使う前に2、3度見て回ります。今回残したものは、写真上からツルリンドウ、フユノハナワラビ、ツルニンジン。 a-killer



9.3 アケボノソウ

昨日、高校の学生寮の川向かいの道路の土手に行ったら咲いてました。今年は草刈りされちゃったためなのか、細々としか咲いていません。

ゆたぼん



9.13 山のご馳走

写真はアケビとサンカクヰルの実です。トチも豊作でたくさん落ちてました。なりものが豊作で、またクマやネズミが増えますね。

父は「むかしは食うのながったから動物より先にき



れーにひろっちゃって、山に実物なんか残ってながった」と。 こずえ
サンカクヰルとは、珍しいな。むかしは、けっこうごでもあつけが、いまでは、めったに見らんじゃなくなった。おらほでは、サナヅラどっちゅう。実も甘ぐでうめーども、この蔓は頑丈で丈夫だっちゅうごんだ。そんじえ、フリオケ(肥桶)の弦に使ったじゃうごんだ。

イサム

9.22 只見のナツズイセン

ここは叶津集落の墓場。咲いでんのは、ナツズイセンだ。ヒガンバナとおんなじ仲間で、只見ではワスレグサどっちゅう。墓場ちがくに植えられでる。この花は、むかしから只見にあって、親しまれでいんだども、近ごろは見らんじゃなくなってきた。おらは、この花が好きだ。単純明快にきれいだべした。だども、只見の人は、ヒガンバナが珍しいどって、球根を買ってきて植えて楽しんでる。ブナどがユビソヤナギもそーだったども、よその人に言われてはじめて気一つぐんだべな。日本じゅう、どこでもあるヒガンバナより、ナツズイセンの方が只見の風景にはあってんと思うどもな。 イサム



10.1 フクロツチガキ



ゆんめって（自宅前）の山さ、ちょごつと用事があって行ったら、登山道わきの土の崩っちゃどごに、たくさん生えてだぞや。フクロツチガキどっちゅう。ツチ

グリに似でっども、こっちのほうは、丸いんで、ツチガキ。もうちょっと古くなつと、頂上の方さ穴開いて、指で触つとほこりのような煙を出すぞや。 イサム

10.4 おしゃべり会のご報告

きんな（昨日）のおしゃべり会は、豪勢だったな。料理は食いきれねえほど、あつし、酒は小川産のマツタケ酒、吸い物は天然マイタケ。参加者11人、みんな大満足だったぞや。最後は、カッコネーの姉さまで、学ぶ会会員の悦子先生（保育士だったんで、みんなこう呼ぶだ）がら、むかし話を語ってもらうちゅう豪華版だったぞや。

決まったごとは、11月20日の夜に稲葉さんの大震災と原発と生物の学ぼう会講演会をやるちゅうごど。この日は、只見町長選挙の投票日になつども、さすけねーべ。あど、八塩田探検を10月ちゅうにやっぺちゅうごど、瀬畑勇三のビデオ会を冬にやっぺちゅうごどなどなど。というごんで、今回は、カッコネーのご尽力にとくに感謝申し上げます。そんじえ、次はいつやる？

イサム

10.6 台風の影響？

今朝、家の窓にぶつかってじっとしている鳥を母ちゃんが見つけてくれました。脳震盪を起こしているのか飛ばずにいました。福井ではトマトハウス3棟が壊れていました。皆さんのところは大丈夫ですか？ 治



おい、この鳥は、トラツグミだんねーの。夜中に、ヒーヒーどって金属音みでえな声出しで鳴くもんだがら、UFOど間違えらちやり、気味悪がられてる鳥だ。古くは、ヌエドリどって言わちえだ。夏鳥だがら、南の国に帰るさなが事故つたんだべな。こだどきは、一報くんつえ。すんま、取りさいぐがら。 イサム

10.8 カエンダケ

只見にも生えてましたカエンダケ。触っただけでただれてしまう猛毒だそうです。知らなかったらさわってしまいそう。4cmほどの鮮やかな赤いキノコでした。

こずえ



10.14 民具のある風景

こごは、おらいの下っ手の慎介あんにゃがいの蔵の入口。民具がなげなく掛けてある風景がよくて、写真撮ったぞや。左から、箕、ざる、メケイ。ちなみに、箕は、フジの樹皮と竹、ざるは、アケビづる、メケイは、チシマザサの稗（茎のこと）。ぜーんぶ、山がら採ったあんだし、地元でこしゃつたんだ。だから、いらなくなって捨てても、土に還るあんだ。これぞ、究極のエコだべや。地球環境に負荷をかけない持続可能な暮らしだべや。これって、只見ユネスコエコパークの真髄であんめーが。 イサム



10.16 塩ノ岐のヤマネ

塩ノ岐の人から、家の前にちっちなネズミが死んでるどって電話あっただ。行ってみたら、ヤマネの子めらだっけ。親がらはぐれでしまっ



て、山がら降りてきたんだべな。家のまわりは、コンクリートで歩きやすいがら、そのまま玄関先に出ちまつたんだべな。こだごとは、前に叶津でもあつたな。まったく同んなじ状況。しかし、秋になって、こだ寒くなって、こだ幼獣が冬、越せんだべが？ イサム

10.16 自然を楽しむ写真展 in 湯ら里

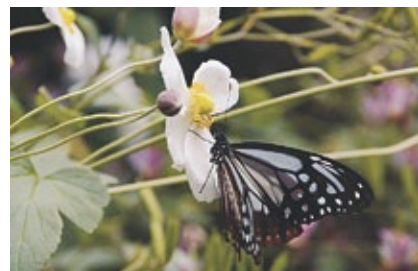
きょうから湯ら里にて、「只見の自然を楽しむ写真展」がオープンしました。準備に参加した方は6人でした。パネル18枚を運び出す作業から始まり、レイアウトやパネル調整やらでけっこう手間取りましたが、まずは満足のいく展示場となりました。展示は11月3日までです。みなさん、お誘いあわせて、たいじえー（大勢）して見に来てけやれ。

イサム



10.17 アサギマダラ

一瞬の間でしたが、今年もアサギマダラが…。止まる花がない状態です。昨年は9月26日でしたから3週間ほど遅い。アサギマダラがシュウメイギクにも来ました。羽の傷み具合から見てどうも昨日の個体とは違うような…。 a-killer



10.21 訃報です

河野昭一先生が亡くなりました。10月14日のことです。添付の新聞記事は、きのうの朝日新聞です。民報新聞は、きょう掲載されました。京大名誉教授、京大博物館初代館長という肩書きは全然気にならない先生でした。「只見のブナは地球の宝だ」と言って、只見のブナ

林伐採反対運動の先頭に立って戦っていただきました。平成14年のことです。ブナ林の学術調査、世界ブナサミットの開催、「自然首都・只見」宣言、只見町ブナセンターの開設など数々の施策を実行され、現在の只見町の基礎を造っていただきました。私たちににとっては、恩人以上の存在です。とにかく、偉ぶらない、いつも弱い自然の味方、ぶれない言動、こよなくカラオケを愛す、魅力満載の方でした。ご冥福をお祈りするとともに、河野先生の意味を継ぐのは、私たちであるということを感じていきたいと思うのであります。 イサム

10.27 白鳥初飛来

コハクチョウの親子が只見湖にいだっけぞや。とうちゃんとかあちゃん、そして子めらが3羽の計5羽。それど、ホシハジロが160羽もいた。あど、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、カンムリカイツブリもいだっけ。いま、飛来ラッシュちゃううどごだべな。 イサム

11.5 カッコネーとユタポン

カッコネーとユタポンが、きょうの民報新聞の会津版にでかでかと載って

いっつおや。ユタポンさんの、収穫を喜ぶ表情がいいずや。会津医療センターが只見のシャクヤクを使うちゅうごんだ。なんと、まあすごい話。 イサム

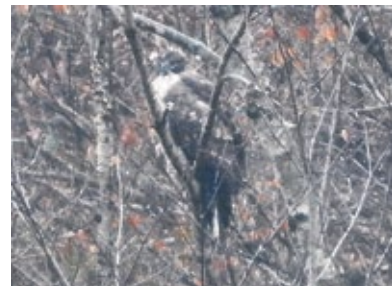
11.16 ジョウビタキのなわばり

ジョウビタキが、朝の暗いうちから夕方暗くなるまで、一日中、おらいのまわりで鳴いでんぞや。甲高い声で「ヒッ、ヒッ、ヒッ」どって鳴ぐもんだがら、来っど、すぐ分がる。おらいの家の窓ガラスに映ったわが姿を見て、体当たりしでる。それもあっちこっちの窓でやってる。なんちゅう縄張り意識が強え鳥だべな。おらいの屋敷とそこの中にある立ち木が縄張りみでえだ。めげえ鳥だども、根はきついな。そだな、人間にもいんぞなあと考えながら写真撮ったぞや。 イサム



11.19 この鳥を教えてください

ボケてよくわかりませんが、何の鳥でしょうか…。 夢街道



これは、みごとなクマタカの成鳥！ 森林を好む猛禽類だから、こうして林の中さ隠っちえで、獲物ねらってんだべな。 イサム

11.25 バードストライク

ここは只見スキー場ロッジ。手前さ落ちでるのはヤマドリだぞや。奥のガラスを突きやぶって、室内さ3mぐれえ



第13回只見の自然に学ぶ会 震災と原発事故 そして生き物たち

2016年11月20日 19:00～21:00

学ぶ会担当 鈴木サナエ

第13回目となる「只見の自然に学ぶ会」は、南相馬市博物館学芸員、稲葉修さんにご講演いただきました。聴講者は29名でした。

お話しは、南相馬の震災以前の美しい風景に始まり、震災後の無残な映像、復活したミズアオイ等のきれいな花々、それから只見でかかわってきた自然のことなど……。

3・11の頃、稲葉さんは毎日浜辺に通い、浜辺で調査を続けておられたそうなのですが、たまたまその時間は高台にある南相馬市博物館におられて助かり、自らを「生き残ってしまった」とおっしゃいます、その「生き残ってしまった者」としての悲しみ（あるいは使命感）は、淡々とした口調の中にも鬼気迫るものがあり、1時間半の講演があつという間に過ぎました。私は

見てみぬふりのお役人、除染作業員の話がショックというか、これが現実なんだろかという複雑な気持ちで聞いていました。

講演会の後は、例によって代表宅にお邪魔してアフター講演会という名の反省会＆飲み会、こちらも多くの参加者でした。

代表、遅くまでおじゃましました。それから送迎・下準備等々ありがとうございました。古川さん、質問のトップはちょっと勇気がいりますが、いつもいつもありがとうございます。高原さん、早くからのお手伝いありがとうございました。明和小学校の先生、私たちが代弁する感想を言うてくださってありがとうございました。

何より稲葉さん、遠くからいいお話を本当にありがとうございました、こ

れからもよろしくお願いいたします。

聴きに来てくださった皆さん、聴けてよかったよね、来れなかった方は残念でした、また次回のお楽しみ。



学ぶ会のPR用チラシ

入って即死状態だったぞや。外傷はなし。目が白いのは、瞬膜どって鳥特有のまぶた。人間は上からつづるんだとも、鳥の場合は下から上につづるんだあ。ヤマドリは、よぐ窓に激突する鳥で、アオゲラに次いで多いべな。そのつぎに多いのは、アカショウビンだべな。あんまりっぱな雄だったんで、ブナセンターさ、もっていったずや。 イサム

12.6 アオバト情報

只見町内で木の実を食べにくるアオバトの写真いただきました。毎年2回くらい鳴き声だけ聴いてたので姿が確認されました。 和子



12.7 忘年会報告

季の郷湯らにおいて学ぶ会の忘年会無事終了しました。勇会長がトイレで偶然、目黒町長と会ったそうです。それがご縁で目黒町長が顔を出してくださいました。そして1曲、「美しい十代」を披露してくれました。ヤンヤの喝采…。大盛り上がりの忘年会でした。夢街道

12.15 目がテン!

高杖原から、「目がテン！」登場です。朝、歯磨きタイムの窓の外。何やら動く！山桜の木を、するする登るのは、テン！山桜の木に、サルナシが絡みついています。あまりにも高くして収穫できません。今年は実がついていないのかと思っていましたが、この時期食べてい

るのは、サルナシの実なのかしら？
襟巻にしたい。 Lily



12.17 イタチが、居たっ!

大分降りました。除雪をしようかと窓の外を見ると雪の中からかわいい姿が、ニホンイタチでした。 a-killer



12.17 タヌキ救出

今日6時頃、用水路の中で登れないタヌキを発見。なんとかスコップで陸に上げたものの、ガタガタヨタヨタで歩けなかったため、車庫の中でお休みいただいています。写真はスコップ待ちのタヌキ。「来年トウミギ全部食われっから」と、ばあちゃんに言われつつも、つぶらな瞳にやられ、本気で助けました。 万寿美



12.23 えへん!

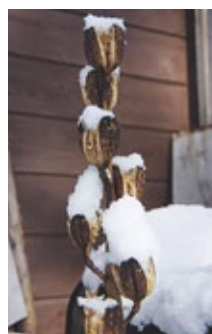
自然関係出版の大手の平凡社が、30年ぶりの改定を進めている「日本の野生植物」の第3巻におらの写真が載ったぞや! 第166図版の右上にちっちゃぐ出でる。ユビソヤナギの皮を剥いだ写真だあ。それに、最初のページの撮影者一覧にもおらの名前が載ってる! ちょー、嬉しーぞや。

平凡社の「日本の野生植物」っていえば、日本を代表するもっとも権威ある植物図鑑。これにあげてもらえるなんて、はあ、おら、有頂天になっちもう。値段は23,000円と高えども、おらには一生の宝もんだあ。ちなみに、この図鑑は、全5巻で、全部で12万円にもなっても、植物やっぺと思う人なら必需品だべな。 イサム

12.28 コリ3態

昨夜から15cmほど降ったでしょうか。上から順にオオウバユリ、ヒメサユリ、ヤマユリです。オオウバユリには未だ種が残っています。

a-killer



只見の音

だいぶ前にメーリングリストで呼びかけて集めた「只見の音」を報告します。只見で聞こえる只見らしい音を寄せてもらいました。只見らしい音が集まったでしょうか。 〈順不同〉

- 初夏のカエルの合唱
- 冬の無音
- 薪のはぜる音
- 早朝の除雪車
- アオゲラのドラミング
- エゾハルゼミの鳴声
- アカショウビンの鳴声
- モリアオガエルの鳴声
- カジカガエルの鳴声

- 雪の積もる音
- ^{まめぶ}豆打ちの音
- 稲穂の揺れる音
- 風の音
- ^{すぎつば}焚き付けの杉葉のはぜる音
- マタタビの皮をはぐ音
- 屋根から滑り落ちる雪の音
- 雪どけの水(川)の音